

本年度の重点目標

- ・一人ひとりの尊厳を重んじ、その能力を伸ばし、豊かな人間性を備えた人間の育成をめざす。
- ・センター的機能を推進し、地域に開かれた学校づくりに努める。

領域	重点評価項目	中間評価(10月)	総合評価(3月)	
		自己評価	自己評価	学校関係者評価
1 学校経営	組織や教育環境の具体的課題を明らかにし、全教職員共通理解のもと学校経営に努めている。	A	A	A
	学校、家庭、地域が連携し、明るい学校づくりに努めている。	A	A	A
2 教育課程・学習指導	児童生徒の自立と社会参加を目指した教育課程の編成に努めている。	A	A	A
	児童生徒一人ひとりの発達段階や学習理解の実態を踏まえ、わかりやすい授業に努めている。	A	A	A
3 生徒指導	児童生徒の実態にあわせてたきめ細かな生活指導や通学指導に努めている。	A	A	A
	自発的な活動を通して心豊かにたくましく生きる人間の育成に努めている。	A	A	A
	いじめを見逃さないよう、児童生徒の学校生活の把握および指導を行う。	A	A	A
4 進路指導	体験的な取り組みをとおして働くことの喜びや大切さを知らせ、卒業後の進路を考えられるように努める。	A	A	A
	関係機関等の障害者理解の促進に努めている。	A	A	A
5 保健・安全指導	児童生徒の健康の増進と体力の向上に努め、体力づくりを学習で取り組んでいる。	A	A	A
	家庭・医療関係等との連携を図り、児童生徒一人ひとりの生命の維持、健康安全に努めている。	A	A	A
	自助袋の取組や避難訓練等をとおして防災意識を高めている。	A	A	A
6 人権教育	児童生徒一人ひとりがお互いが人として尊重しあう仲間づくりに努めている。	A	A	A
	教職員研修を実施し、児童生徒に対する人権教育の授業に取り組んでいる。	A	A	A
7 環境教育	身近な自然や環境を学習の場とした教育活動に努めている。	A	A	A
	児童生徒の実態に応じて清掃や美化活動を行っている。	A	A	A
8 交流及び共同学習	学校間交流や地域との交流を進め、児童生徒の生活経験の拡大に努めている。	A	A	A
	障害者の有無にかかわらず、地域で共に暮らす社会実現を目指し共同学習に取り組んでいる。	B	B	A
9 教職員の現職教育	幅広いテーマで計画的な研修を実施し日々の教育活動にいかしている。	A	A	A
	特別支援教育に関する組織的な研修を推進し、専門性の向上に努めている。	A	A	A
10 センター的機能の発揮	特別支援教育の趣旨を踏まえ、地域のニーズを的確に把握した教育相談活動に努めている。	A	A	A
	特別支援学校としての専門性を生かし地域のセンター的役割を担っている。	A	A	A
11 その他学校の取組み	自己評価や学校関係者の評価を行い、評価結果の公表と教育活動の改善に努めている。	A	A	A
	花販売や緑化活動をとおして、地域に根ざし、地域に開かれた学校づくりに努めている。	A	A	A
	学校の情報を地域や保護者にホームページやメール等で積極的に発信している。	A	A	A

注 ・生徒指導の欄に、いじめの項目を入れること。

・自己評価:ABCDの基準については、評価項目の内容が、十分に達成できた場合(達成度80%以上)はA、おおむね達成できた場合(達成度60%以上80%まで)はB、あまり達成できていない場合(達成度40%以上60%まで)はC、達成できていない場合(達成度40%未満)はDとする。ただし、アンケートの結果等を機械的にABCDの評価に置き換えるのではなく、学校の現状を真摯に分析・検討し、今後の学校改善につながるよう、適切に評価すること。